

平成28年度 学校評価自己評価及び学校関係者評価（外部評価）表

東広島市立高美が丘中学校

教育目標		知・徳・体の調和がとれ、思いやりと行動力のある生徒の育成				評価 4・・・目標を上回って達成 3・・・ほぼ目標どおりに達成 2・・・目標をやや下回る 1・・・目標をかなり下回る		
経営理念		〈ミッション・ビジョン〉 『学んでよかった、学ばせてよかった』と生徒・保護者から期待され、信頼される学校づくりの再構築を行い、グローバル化する社会を生き抜いていく生徒の育成を図る。						
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	評価		短期経営目標の達成状況
						7月	1月	
学習指導	1	○確かな学力のさらなる向上 (生きる力の基盤となる知識の習得)	家庭学習の充実	・授業と家庭学習の連動	・家庭学習時間1時間以上90%以上	2	2	1年生は97.8%(7月)から84.8%(12月)と目標値以下へ減少する。2年生は、58.3%(7月)から51.3%(12月)へ目標数値以下で減少する。3年生は71.2%(7月)から92.5%(12月)と増加し、目標数値を上回る。入学後の家庭学習への取り組みで、意識付けができていくものの、それを継続していくことに課題があり、中だるみの傾向がある。3年生では、進路選択を控え、時間が増加していく傾向がある。
			主体的な授業改善と工夫の実施	・校内研修の充実	・生徒授業肯定的評価90%以上	2	3	1年生は88.9%(7月)から82.6%(12月) 82.6%と目標数値以下で減少する。2年生は89.0%(7月)から90.5%(12月)と増加し、目標数値を達成。3年生は81.8%(7月)から94.1%(12月)と大きく増加し、目標数値を達成できた。授業満足度はおおむね高い。3年生は前期に比べ大きく上昇しており、授業改善の取り組みが効果を上げていると考えられる。
				・教育センター等への一人一講座受講	・県(基礎基本)定着状況調査全教科通過率 県平均10ポイント以上 市平均 5ポイント以上	-	2	・国語は72.7%,数学は72.1%,理科は58.7%,英語は82.1%という結果で、県平均に対する目標値は英語で上回った。市平均に対する目標値は上回ることができなかった。英語についてはある程度良好な結果といえるが、すべての教科について今後、小学校との連携を図る中で各学年の経年変化を見ながら課題をはっきりさせ、教科別の研修等で取り組みの方向性を確認していく必要がある。
学校行事の充実	・身につけさせたい力の明確化	・生徒意識調査90%以上	4	4	1年生は97.8%(7月)から87.0%と目標値以下へ減少する。2年生は93.2%(7月)から91.9%と目標値を達成したが減少、3年生は98.5%(7月)から98.5%(12月)と目標値を達成し、学校行事についての取り組んできた成果が出ている。昨年度との比較では全体として数値が上昇しており、生徒会執行部を中心としながら生徒自らが意欲的に取り組めるような行事を作ることができたと考える。			
生徒指導	2	○社会に通用する生徒の育成 (思いやりのある生徒の育成)	生活三訓の徹底	・学校生活での徹底	・生活三訓にかかわる生徒意識調査90%以上	3	3	挨拶では、1年生は95.6%(7月)から95.7%(12月)、2年生は95.9%(7月)から97.3%(12月)、3年生は93.9%(7月)から94.1%(12月)時間厳守では、1年生は93.3%(7月)から93.5%(12月)、2年生は97.3%(7月)から95.9%(12月)、3年生は93.9%(7月)から98.5%(12月)、整理整頓では、1年生は95.6%(7月)から93.5%(12月)、2年生は86.3%(7月)から86.5%(12月)、3年生は89.4%(7月)から89.7%(12月)に推移している。挨拶と時間厳守においては目標を達成することができた。しかし、生理整頓に関しては達成できなかった。全体指導を進めながらも、個別指導を充実させていく必要がある。
			校内環境美化の整備	・心を育てる緑化活動の推進	・生徒意識調査90%以上	2	2	1年生は82.2%(7月)から58.7%(12月)と目標値を下回り減少、2年生は74.0%(7月)から82.4%と目標値以下で増加し、3年生は74.2%(7月)から86.8%と目標値以下で増加した。緑化活動の取り組みの定着は図られてきたが、全体で目標値を下回った。生徒の達成感を高めるため積極的に活動に取り組んだり、主体的に参加する状況を作ることが今後の課題である。
			委員会活動・部活動の充実	・自主的な活動の推進	・生徒意識調査90%以上	3	3	委員会活動では、1年生は100.0%(7月)から97.8%(12月)、2年生は98.6%(7月)から97.3%(12月)、3年生は97.0%(7月)から97.1%(12月)、部活動では、1年生は100.0%(7月)から95.6%(12月)、2年生は95.9%(7月)から94.6%(12月)、3年生は80.3%(7月)から79.6%(12月)と推移している。全体的には目標を達成できているが、3年生においては引退前の7月に部活動が充実するようさらに取り組む必要がある。
信頼される学校	3	○開かれた学校づくりの推進 (自尊感情と行動力の育成)	小中一貫教育の積極的な推進	・小中学校教員の積極的な情報交換	・小中連携合同研修会の年間2回以上実施	2	3	・第1回/8月19日(金) ①授業力向上・生徒指導の取り組みを小中で発表、②意見交流会「児童生徒に付けたい力～あいさつ運動を通して児童生徒の力」、③指導講話「広島大学大学院教育学研究科教授 林孝先生」 ・第2回/1月28日(木) ①「総合的な学習の時間」の取組について小中で発表、②意見交流会「小中9年間を通した総合的な学習の取組」
				・学習活動(英語・外国語活動など)及び行事等を通じた交流活動の充実	・高美が丘中学校への進学率80%以上	2	2	・英語科での交流 ①授業交流(小中相互に1回)②教材の交流(中学校で使用した教材を小学校でも活用した。また、中学校の先生紹介の教材を小学校で掲示) ・行事等の交流 ①オープンスクールの実施(7月7日6年生対象 授業・部活動体験)②夏祭り(音楽部と小学校「高美が丘の風」とのコラボ)③教育講演会への参加(2月18日「青山学院大学陸上競技部監督 原晋監督講演会」に参加) ・平成29年度進学率 61%
			地域連携事業の実施	・保護者、地域への情報発信 ・地域行事への参加及び連携事業の実施	・保護者満足度調査90%以上	2	2	・保護者地域への情報発信 ①学校日より定期的に発行 ②校外掲示板の活用 ③HPのリニューアル ・地域行事への参加 ①きれいな町づくりキャンペーン(6月) ②マツカバリュ祭(6月)・夏祭り(7月) ③アワスイイキャンペーン(11月) ・保護者アンケートの結果より、情報発信についての満足度は、95.0%(7月)96.8%(12月)と年間通して満足度は目標を達成した。地域行事への参加については、65.6%(7月)61.0%(12月)と昨年度に引き続き、課題が明確になった。来年度の取り組みがさらに必要である。

改善の方向性

〈学習指導〉	○「東広島市教育推進指定校」研究公開(H28.11.2)に向けた校内外の研修の充実 ○各教科の特性を活かした「かかわり合い」を取り入れた授業改善と工夫 ○各種検定への受検 ○補充学習の充実	学校関係者評価(外部評価)
〈生徒指導〉	○生活三訓の全教室での掲示、HR及び生徒委員会等での徹底 ○不登校生徒の状況把握、情報共有、保護者連携及び関係機関等との連携・充実 ○生徒へ寄り添い、かかわりきる指導の徹底 ○生徒指導の三機能を活かした授業スタイルの確立	【第1回】 ・部活動の充実について、部活動の種目を増やして生徒が魅力に感じられるようにする。 ・小中一貫校推進について、小中一貫校の実現に向けて小中学校の教職員の意識統一を図る必要がある。 ・地域行事への参加について、参加するだけでなくさらに「プラス」その意味を考えてほしい。さらに一歩何がができる。 ・先生方が挨拶運動に取り組んでいることは生徒が十分感じており、効果も出ており以前より挨拶が良くなった。今後も続けてほしい。 P.T.Aや親として学校を支えていきたい。 ・「小中一貫」の言葉が先行しないように気をつける。小中一貫の中身を具体的に示してもらわないと賛成できない。 ・中学校に生徒の選択肢を増やしてもらいたい。部活動の種類を増やす等、生徒から見て中学校の魅力が増すようにしてもらいたい。
〈信頼される学校〉	○「学校関係緑化活動」を通じた保護者、地域との連携のさらなる充実 ○学校だよりの配布及びHPの更新 ○積極的な地域行事への参加 ○小学校と連携した挨拶運動、授業交流など積極的な交流活動の実施	【第2回】 ・小中一貫に向けて、緑化を柱に連携を実施しているが、「里山探検隊」等地域との連携行事を行うなら協力をしたい。 ・学力は既に高い。小中一貫が良いのか悪いのかわからない。大人の都合でなく子どもが「つながる」という視点で交流を進めてほしい。 ・生徒は確実に良くなっている。学校ではなく地域が変わった。地域の教育力が弱くなっているの、地域に対して刺激を与えてほしい。 ・あいさつ運動は市内でもトップクラスだと思う。しかし、学校ではよく挨拶するが地域ではない。地域の大人がしていない。 ・学校を中心に地域づくりをしている所は衰退している。これ以上学校は頑張れない。地域・家庭が実践していくか、市行政が先頭に立たなくては地域づくりの問題は解決できないのではないかと。 ・学校が地域に発信仕切れていない面がある。積極的にアピールをして行くことが大切だ。